



〈夏観テーマ〉

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

発行日:2025(令和7)年8月26日 第62号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞

高山市鉄砲町6 ☎ 0577-32-0776

web <http://hidagobo.jp> ✉ [takayama@higashihonganji.or.jp](mailto:takayama@higashihonganji.or.jp)

### 8月限定企画『ご坊さまの鐘を鳴らそう!』

明け六つの 鐘がご坊ゆ わが町の 家々に鳴る わが家にも鳴る

と法学者・牧野栄一博士が歌ったように、その響きは高山の町の風物詩でした。現在、毎朝6時と法要日の正午に大鐘を撞いていますが、むかしは夕方にもその鐘の音は響いていたといひます。その懐かしい夕鐘の響きを夏季限定でよみがえらせるべく、地域の方、特に子どもたちを対象に鐘つき体験が企画されました。

鐘の音につられるように日に日に参加者は増え、お盆の頃には20名を超える子が列をつくりました。鐘をつく前に合掌し、小さな子にはスタッフが手を添えて、「1、2の3」で大鐘を響かせました。そしてもう一度合掌して「なむあみだぶつ」。スタンプカードにハンコを貯めて、御坊キラキラシールをゲット。それも楽しみの一つになって、毎日のように通ってくる子もいました。今ではもう鐘つき名人です。

この夏の響きがいつまでも子どもたちの心に残りますように。そして、またどこかで響く鐘の音が、南無阿弥陀仏のご縁になりますようにと願っています。鐘楼のあるご寺院さまにはぜひ、近所の子どもたちに鐘の音の響きを体験させてあげる機会を作っていただければ幸いです。



子どもたちの鐘の音が高山に響く



たくさんスタンプ集めたよ

### 『夏のつどい 飛騨御坊からの挑戦状』

7月22日(火)、23日(水)の2日間、今年もにぎやかに開催



### ■岐阜地区でも「夏のつどい」を開催(岐阜別院) 7/28~29

岐阜地区の児童教化連盟が主催して開催されました。1日目は、みんなでカレーを食べ、銭湯へ。夜には花火や肝だめしをしました。2日目は、水遊びやBBQを楽しみました。また、2日間かけて、みんなで協力し、花まつりに登場する“白ぞう”が製作されました。



写真提供 第11組願長寺 川並秀樹氏

### ★センター・別院からのお知らせ★

#### 秋季彼岸会(高山別院) 9月20日~26日 高山別院

- 20日(土) 窪田 純氏(圓徳寺住職) 私の彼岸 仏の悲願
- 21日(日) 澤邊 惠秀氏(誓願寺前住職) 本師源空明仏教
- 22日(月) 小原 正憲氏(専念寺前住職) 「おまかせ」の世界
- 23日(火) 三島 多聞(別院 輪番) 法蔵菩薩因位時…私の出発…
- 24日(水) 三木 朋哉氏(浄福寺住職) 間一不可思議を思議する一
- 25日(木) 三島 清圓氏(西念寺前住職) 御文と妙好人
- 26日(金) 小原 宗成氏(圓龍寺住職) 浄土往生

#### 第44期 真宗公開講座 僧侶方のご参加を! 伝道部会

今年度も、真宗公開講座が開催されます。10月からの開催となり、今年度は、高山地区坊守会の若手坊守が集う「れんげの会」が50周年を迎えることから、その記念の回として5月にも開催されます。

真宗公開講座を開催してきた、僧侶の方の出席が少ないという指摘を受けています。是非、ご参加くださいますようお願いいたします。



#### 飛騨学場・暁天講座 8月1日~5日 高山別院

今年も、8月1日から5日の5日間、飛騨学場が開催され、お朝事後には暁天講座が開催されました。



次講師:金龍 静氏

学場の本講(1日~3日)は、昨年までに引き続き、藤場俊基先生(金沢教区)にご出向いただき『浄土論』『浄土論註』が開く仏教観一浄土を共有しようとする精神(こころ)一を講題に、また次講では、金龍静先生(本願寺派北海道教区)に「戦国期飛騨真宗史の諸問題」と題しご講義をいただきました。

暁天講座では、今年が戦後80年にあたることから、5日に三島輪番による「一戦後80年に当たり一戦争孤児の願い」を講題に、三つの戦争孤児にまつわるお話を聞きました。また講座後、上清水信男氏(西蓮寺)による、沖縄の小学生による終戦の詩を朗読いただきました。 詩の朗読:上清水信男氏⇒



飛騨御坊 HP『ひだご坊一口法話』9月

伊達 俊幸氏(高山1組稱讚寺住職)

白川 明子氏(高山2組願生寺住職)

### 高山別院報恩講「帰敬式」受式者募集中

各ご寺院からのセンターへの申請締め切り【10月3日まで】。締め切り日厳守にてお願いいたします。必ず法名をご記入いただき、冥加金を添えて申請ください。

# 戦後80年を迎えて④ 『そして鐘はならされた』 一下呂・鳳凰開拓団の最期②

## ■私記『北満にさまよう御霊』

下呂から開拓農民として満州北辺に入植した鳳凰開拓団は、昭和20年8月24日夕刻、大地に響き渡る半鐘を合図に、悪夢のような最期を迎えてしまった。

鳳凰開拓団の最後の生存者Kさんが残された私記『北満にさまよう御霊』は、戦後半世紀以上を経て2002年に自費出版された。その「後書き」には、



…私が引き揚げ当時の日誌の中から記憶を辿ってかき集め、一冊の手記としてまとめました。…当時16歳でした私が、この眼で見この体で体験した真実の手記であります。(21世紀になって)…どうしても書いておいて、後世に残さなければならないという使命感のような思いだけで、読みづらい形であっても原稿だけをまとめておけばよいと思っていたのです。…私にとりましては消すことは出来なくても、二十世紀の総括の一端として、どれだけかの人たちに読んでいただくことも意味あるように思えたのです。

※( )は旭野補注

と記しておられる。忘れたくても忘れられない生々しい記憶は、克明で膨大なメモに刻まれ、そして200字詰め原稿用紙950枚に及ぶ原稿にまとめられた。

理解し難い決断を団や家族に強いていく幹部達に戸惑いながらも抗えない悔しさ、絶望的な興奮に陥っていく身勝手な大人達への落胆。大切だったはずの倫理や道徳が簡単に壊れていく怖さ。極限でも惹起する大人の狡猾さや傲慢、正気や平常心を失うことを誘発させる集団心理。一方で、覚悟を決めてその時を待つ女性や老人の落ち着き、

事態を受け入れようとする健気な子ども達、何もわからずいつものままの幼子達の無邪気さ。Kさんの悔しさ、憤り、悲しみが滲んだ文章が連続する。どこの家庭にも集団自決がどういうことか理解できない幼い子ども達も大勢いた。理由もわからず爪や髪を切ってもらい半紙にくるむ、家族が一堂に集まっていることが嬉しくてはしゃぐ子ども達、勉強好きの子が静かに教科書の頁をめくる規則正しい音。一張羅の着物姿でお出掛けを心待ちにはしゃぐ幼子。

## ■戦争の話、無関心な傍観者とならない

Kさんが常に力説されたのは、教育の重要さと怖さ、そして学校で教えられたことも、家庭や地域で学んだことも、すっ飛ばしてしまうのが戦争だ、ということ。「皆日本人である以上、全員揃って沖縄に習い、日本人として恥ずかしくない立派な玉砕をすることであると、日頃学校で教育されていた。この子達(Kさんの弟妹)には自決するということがそれほど恐ろしいものであるとは思っていなかったようでした」。しかし実際には、「…死にきれなかった子ども達は先を争って団員の銃の前に立ち、私から僕から先に…、と悲愴なこえで叫んで…。自決模様の修羅場はどうてい筆舌に尽くせるものではありません」。

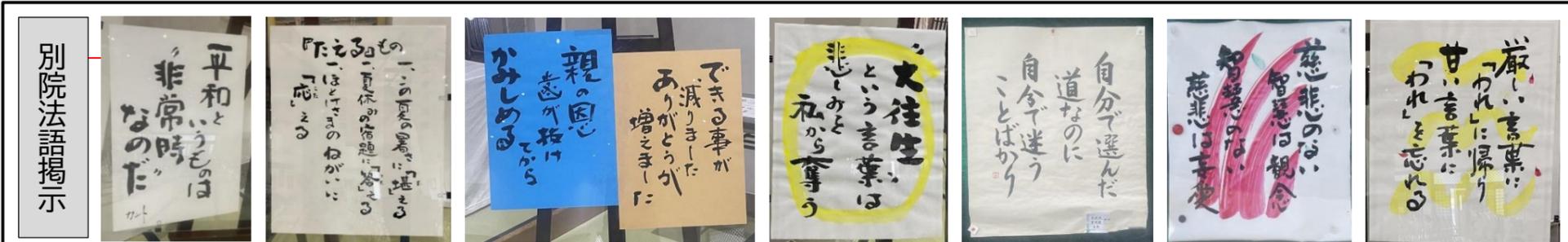
生き抜くことより、強制死(自決)を意味ある潔さと美化することを強いた当時の教育。Kさんが自らの惨めな経験、忘れたい記憶を、敢えて文章として慚愧の念で書き残された願いは何なのか。それは、私たちがその惨めさや忘れたい体験の記憶に触れて、初めて戦争の実相や本質を知り、美化に隠された愚かさや過ちを見抜き、二度と起こさないと誓い、自分事として追体験し、戦争の愚かさや平和の尊さを心に留め、生き抜いてほしいと願われたからだ。

Kさんの体験を、歴史の一コマの出来事にしてはいけない。日本人だけでなく人類が向き合い、私たち一人一人が問い続けるべきだ。歴史の過ちを正しく学び続けてこそ、未来は正しく開かれるのだろう。手記の前書にはこうある。

この記録をどうまとめるかについては随分悩み苦しみました。…私にとってもまた開拓団にとっても最も悲劇となった集団自決の事実、真実を焦点に、逃避行と帰郷までの間に絞ることにしました。それはここが私の心を揺さぶり続けて苦悩をかもし出している中心だからです。だが実際に鉛筆を走らせていると、十数年かけてようやく薄らぎかけていた事象が、改めて現実の出来事として目頭に浮かびだしどうにも執筆を続けることができなくなる場合が何度もありました。泪があふれ出してきて「ごめんね」とつぶやかざるを得ない場面がいくつかありました。でもあの北満(中国東北部)の大地に今も静かに眠る御霊を弔う心と、これからの日本を創ってゆく若い人々への参考になればという願いで、拙き筆をとり続けました。

Kさんは亡くなられた。Kさんの戦後、揺さぶられ続けた苦悩は終わったのか。いや終わらせてはいけない。今も戦後ゼロ年を生き続けられ、願っておられるのだ。濃飛青少年義勇軍から無事帰還された清見の老僧も、朝日開拓団長家族で生還された莊川の老坊守さんも、今はもうおられない。先達の願いを忘れてしまった時、次の戦争が起こるのかもしれない。戦後を生きている私たちの願いが、平和な未来につながる。(終)

益田組 永養寺住職 旭野康裕



## 飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2025年9月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場			
1	月				19	金						
2	火				20	土	13:00	別 彼岸会 法話：窪田 純氏(圓徳寺住職)	本堂			
3	水	13:00 16:00	別 三日の御坊法話:澤邊 恵亮氏(誓願寺住職) 組 吉城組所長巡回	本堂 誓願寺	21	日	13:00	別 彼岸会 法話：澤邊 恵秀氏(誓願寺前住職)	本堂			
4	木				22	月	13:00	別 彼岸会 法話：小原 正憲氏(専念寺前住職)	本堂			
5	金	7:00	別 半日華		23	火	13:00	別 彼岸会 法話：三島 多聞氏(別院輪番)	本堂			
6	土	14:30	組 朝日高根組所長巡回	朝日支所	24	水	13:00 14:00	別 彼岸会 法話：三木 朋哉氏(浄福寺住職) 教 寺院活性化支援会議	本堂 岐阜高山教務所			
7	日				25	木	13:00 16:00	別 彼岸会 法話：三島 清圓氏(西念寺前住職) 教 正副座長・幹事室長懇談会	本堂 ミーティングルーム			
8	月	14:00	教 解放推進協議会輪読会	センター室	26	金	13:00 19:00	別 彼岸会 法話：小原 宗成氏(圓龍寺住職) 教 教化研究所	本堂 研修室			
9	火				27	土	13:00 13:30 15:30	別 大連夜 組 高山1組帰敬式法座 組 清見組所長巡回	本堂 御坊会館 了徳寺			
10	水	14:00	教 解放推進協議会常任委員会	センター室	28	日	13:00	別 親鸞聖人御命日法話：小倉 輝穂氏(圓城寺住職)	本堂			
11	木	13:00 13:30	別 大谷婦人会定例 法話：三島多聞氏(輪番) 組 高山2組組会	御坊会館 研修室	29	月	18:30 14:00	組 莊白川組所長巡回 教 解放推進協議会公開学習会	平瀬文化会館 研修室			
12	金	13:30	組 高山2組坊守会研修	研修室	30	火	16:00	組 益田組所長巡回				
13	土	7:00	別 前住上人ご命日	本堂	2025年10月 ※中旬までの掲載とし、定例行事は省きます。							
14	日	13:00	別 納骨経	本堂	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
15	月				1	水	14:00	別 真宗公開講座①	7	火	19:00	別 第一回地区声明儀式作法研修会
16	火				2	木	14:00	教 慶讃委員学習会	8	水	19:00	別 帰敬式実行委員会
17	水											
18	木	7:00	別 一日華	本堂								